

目に見えない凶器

広島市立中広中学校 3年 中原 美優



「きもい」「死ね」「消えろ」。SNS上で一度は目にしたことのある言葉ではありませんか。いわゆる「誹謗中傷」。私は、最近特に、心のない言葉が無責任に発言する人が増え、それによって心が痛むニュースを目にすることも多くなってきているように感じます。あなたはこの問題をどのように捉えますか。

SNSは本当に便利で、今では日常生活で欠かせなくなっている人も多いと思います。

例えを一つ挙げるとすればLINE。LINEは、グループトークと違って複数の人と会話ができるので、会社や部活でグループを作れば、一度に大勢の人に情報を共有することができるし、インターネット上でリアルタイムに話し合いをすることもできます。また中高生の多くが利用しているインスタグラムやツイッターでは、不特定多数の人とつながることができるため、同じ趣味を持つ人などと、新たな出会いがあるかもしれません。最近ではこのようなSNSの特性を生かして、コロナウイルス感染防止に関する情報を伝える都道府県や自治体も見られるようになりました。

しかし、便利な反面、命に関わる問題も発生しています。「不特定多数の人に見られる」。裏を返せば、「顔が見えない多くの人とつながっている」ことにつながるのです。「顔が見えない」多くの人物から言葉の暴力を受けて、自ら命を絶ってしまった方もいらっしゃいます。SNS上にわざわざ悪口を書く人たちは、一体、どのような心理で書いているのでしょうか。私は、大きく分けて三つの理由があると思います。

まず一つ目は、相手は受け入れられないということです。自分と比べてあの人はこうだ、あの人のここが気に入らない。自分との価値観の違いが「批判」に変わり、それを誰かに共感してほしいという気持ちからSNSに書き込み、多くの人から共感を得ようとしているのだと思います。たった一人の批判が大きな広がりを見せ、批判の対象者の元へ届いていくのです。「批判」は生まれただとしても、それを自分の中で留める必要があります。わざわざSNS上に書き込む必要はありません。

二つ目は、周りの環境によるストレスです。学校や会社での上下関係や、家庭トラブルなどによって一人で抱え込んでいる悩みはありませんか。私は、誰にも相談できないというストレスを、SNS上で誰かにぶつけているのだと考えます。実際に、私もストレスがたまった時に、両親や兄弟にあたってしまうことがあります。心の疲れから解放されようとして利用している人がいること

も要因の一つだと思います。

三つ目は、先程も述べたように、SNSには、「相手の顔が見えない」という特徴があるということです。対象の人の悪口を書くだけのためのアカウントを作っている人もいるということを知ったことがあります。「顔も見えないし、どうせ誰が書いているか特定できない」、「自分だけじゃない、他の人も同じようなことを書いている」など、「バレない」という気持ちから書いている人が多いと思います。私も、「特定できない」から誹謗中傷はなくなるのだと思っていました。しかし、インターネットで検索したところ、悪口を書かれた人が法的措置に出れば、インターネットサービスプロバイダ・レンタルサーバー側は、警察や弁護士の求めに応じて情報を開示し、個人特定が可能になるそうです。

総務省のホームページを見てみると、「誹謗中傷」に関する様々な取り組みが行われていました。しかし、それをほとんどの人が知らないということが現状だと思います。まずはSNS利用者の多い学校で、「誹謗中傷」に関する授業を行ってみてはどうでしょうか。軽く触れることはあっても、詳しく勉強したことはないと思います。「知る」ということは、「行動する」ということにつながります。

「誹謗中傷」によって犠牲者が出て、現在もなお続いている。インターネットが普及してきた現代だからこそ起きる問題です。私はこの問題を、「犯罪」と捉えています。なぜなら、人を傷つけることだからです。

言葉は時に、凶器となります。SNSは、顔が見えないし、みんなも同じことを言っているかもしれない。そこで、一度考えてほしい。自分の両親や友達に、面と向かってその言葉を言えますか、と。ストレス発散のために他人の心を刺そうとしていませんか、と。一人でも多くの人々の心に届くことを、願っています。